

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号			
法人名	株式会社ユニマツ・リタイアメントコミュニティ		
事業所名	新座北野グループホームそよ風		
所在地	埼玉県新座市北野15-16		
自己評価作成日	令和4年1月16日	評価結果市町村受理日	令和4年3月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社シーサポート
所在地	東京都練馬区東大泉3-37-2
訪問調査日	令和4年3月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>★ ひとりひとりの入居者様の日々の健康状態を介護職員が把握、非常勤看護師を配置し、医療面を強化。地域の医療機関、往診医と連絡を取り合いご入居居者様へ安全・安心してご利用いただけるよう心掛けている。</p> <p>★ 介護職員の離職率が低く入居時から継続して入居者様の状態を把握する事ができている。また、市内に同法人のグループホームがもう一か所あり、そちらと連携をみつにとり情報共有を行っている。</p> <p>★ 地域に根付いた開かれたホームを目指している。コロナ禍で外出行動など制限があるが、室内でのイベント開催や毎月行事を開催しご利用者様へ四季の変化を感じていただくよう心掛けている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>● 職員の手作りによる三食の食事提供がなされており、食材についても利用者の意向を参考に選定されています。配食等の利用が多くなる中、自施設での調理は貴重であり、あらためて管理職・職員の尽力に敬意を表します。</p> <p>● コロナ禍にあつて越越し面会を実施しており、リモート機器の用意など安全に面談できる環境を整備されています。家族との関係が疎遠とならないよう配慮し、写真付きの便りで報告するなど利用者の現況を細かく伝えています。</p> <p>● 新型コロナウイルス感染防止により外出機会が失われないよう玄関脇スペースや勝手口等のスペースを活用し、外気に触れるよう努めています。また運動機能低下を防止するため、ラジオ体操の実施等にもあたっています。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員の目にとまりやすい場所に理念等の掲示がしており、ミーティングなどで再確認する機会がある。	パンフレットにおいて本ホームの特徴、グループホームの概要等について発信している。穏やかな生活を送れるよう職員の配慮と優しさで支援が継続されている。	職員の世代交代・管理体制の変更など大きな変革期にあたり、ホーム一丸となって対応していくことが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍にて交流を一時的に中止・制限をしている。	新型コロナウイルスの影響により交流・親睦が縮小・中断している。終息後の再開が待たれている。	退所者が出たことにより空室が出来ている。関係機関への案内をしており、更に法人との協調、地域との連携を図る意向をもっている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍にて交流を一時的に中止・制限をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍にて交流を一時的に中止しているが電話連絡やお便りで近況をお伝えしている。	新型コロナウイルスの影響により集合開催ができないため、書面開催にて代替している。ホームの様子や行事等写真も交えて報告し、意見や感想をもらい、運営への参考としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の職員から情報を受けたり、相談や報告を必要に応じて行っている。	行政からの連絡、法人からの指導により新型コロナウイルスの対応、感染防止対策を講じている。また行政からの不足物資の配布は安全な環境形成に役立てられている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠については入居者様の状況やホームの立地環境を加味し施錠している。ホーム内で定期的に身体拘束の研修を行っており、日々身体拘束にあたらぬケアに留意している。	身体拘束廃止、高齢者虐待防止等について事業所内研修を計画・実施している。受講後は報告書を作成・提出し、研鑽の確認がなされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の大小に関わらず、日常生活の中で常に意識して介護にあたり、ホーム内で定期的に研修や虐待防止についての委員会を開催している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者様がいる。 また、権利擁護に関する研修が社内研修等である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は所定の場所と時間を設定して書類の読み合わせなどでご理解が得られるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍でなかなか面会が出来ない状況であるが定期的に連絡を取り、意見や要望を取り入れる様、心掛けています。	法人の取り決めに従い、コロナ禍にあつて窓越し面会を実施している。またリモート機器等も用意しており、安全に面談できる環境を整備している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時やカンファレンスを行い、職員が気軽に意見交換ができる環境を作っている。	全体、フロアごとにミーティングおよび個別のカンファレンスを実施し、支援方法・利用者の状態を確認している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に人事考課をおこなっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外の研修への参加や資格取得への相談・協力体制が出来ている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍以前は職員が同じ市内にある同法人のグループホームに出向き交換研修を行うなど、サービスの向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談や入居時調査を行い、ご本人及びご家族様の不安や要望を聞き、関係機関との連携を含め、信頼関係の構築につとめている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	特に入居一か月は、ご本人及びご家族様との連絡を密にとり、ご本人様の不安が軽減するようつとめている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お話(要望や訴え)をしっかりと受け止め、不安や現在困っている事を見極めて出来る限り安心して生活できるよう支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援の観点からご本人様が出来る事は、ご自身で行っていただけるようにし達成感等を味わっていただく支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や外出などコロナ禍で行えない状況であるが、インターネットを使用し動画による面会をおこなっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙やインターネットを使用し動画による面会をおこなっている。	家族に対しては毎月便りを送付しており、関係が継続できるよう努めている。コロナ禍にあつて疎遠とならないよう配慮と報告に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士では会話がはずんでいる時は尊重し、皆様で楽しめる時間を提供したり、安心できる環境作りを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後様子をお聞きする為に電話にて連絡をしたり、関係者との情報交換が行えるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族様との話し合いで、ご本人の思いをしっかりと受け止められるよう支援している。	利用者および家族から生活歴等を聴取し、意向に沿った支援となるよう取り組んでいる。アセスメントの考察、モニタリングの分析をもって利用者本位の支援実施に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のヒアリングを丁寧に行い生活歴やこれまでの生活環境を把握。その方らしい生活が継続出来るよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の生活リズムを大切にし居心地のよい過ごし方ができるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にケアカンファレンスを開催し、ご家族様の参加が得られない時は、電話での要望や意向を聞き、介護計画に反映できるようにしている。	二人のケアマネージャーにより計画作成がなされており、日々の支援からの反映がなされている。利用者の重度化を考慮し、一人ひとりに適した支援となるよう職員への指導・周知に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活日誌や連絡ノートを活用し情報共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の小さな変化にもすぐ気づき、現状に即したサービスの提供が行えるよう、ご家族様や関係機関との連携を行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍にて交流を一時的に中止・制限をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はご家族様の希望に添って通院や訪問診療を受けていただける様、支援している。	往診、通院により利用者の健康管理にあっている。新型コロナウイルスワクチンについても協力を仰ぎ、利用者・職員共にスムーズな接種が実現している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週二回、当社の非常勤看護師を配置。入居者様の状態を常に情報共有できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時や退院時は情報交換を必ず行う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについての研修を定期的開催。入居時に意向をお聞きしたり、ご本人の状態の変化に応じてご本人またはご家族様と話し合いがもてるようにし関係機関との連携をとっている。	入居時には指針に基づき、重度化と終末期の支援について説明している。利用者の介護度上昇やコロナ禍での制限に対しても工夫と配慮をもって取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網の作成や関係機関への通報が出来る様にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期の消防訓練を実施。災害時の避難場所等を共有している。	定期において避難、消火等の訓練を実施している。また新型コロナウイルス対策としてアクリル板の設置等が継続されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の名前は姓で呼びかけ、プライバシーに関することは他者に配慮をしながら行っている。	利用者の自尊心への配慮など管理職が率先して丁寧な支援を実践している。利用者を長く見守ってきた職員によりアットホームな環境となっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴はご本人の様子を伺いながら数回声かけをし、時間をおくなど自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まったスケジュールはなく、その日の天候や雰囲気などによりお散歩や日光浴、フロアでの作業などしたいことしていただける様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの装飾品を身に付けていただき、好きな洋服を選んでいただける様、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来るだけ食事作り参加していただき、ご本人のできる事を提供する様にしている。	職員の手作りによる三食の食事提供がなされている。食材についても利用者の意向を参考に選定されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	規則的な生活を中心に季節によって水分摂取に変化をつけたり食事水分量の確認をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ハミガキの声かけを行っている。また、訪問歯科と連携をはかり介助が必要な入居者様の対応について、職員へ口腔ケアの技術提供をいただいたり相談にのっていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	行動をよく観察したり、排泄チェック表を活用し排泄パターンを把握している。適切な声かけ誘導を行いご本人の自立を促し失禁が減るようにしている。	日々の利用者の排せつは記録されており、確認により適切な支援となるよう取り組んでいる。繊維質や水分の摂取をこころがけ、自然な排便となるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を取り入れた食事や水分摂取の促しを心がけている。適時、主治医や看護師との連携をとっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の好まれる時間帯やタイミングなどをはかって楽しく入浴できる様に支援している。	利用者の清潔を保持するため、定期的な入浴実施に取り組んでいる。利用者の状態にあわせた入浴方法を採用し、気分的にもリラックスしてもらうことをこころがけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	20時頃居室に入ってもらいが、眠る時間は個人に任せている。また、テレビを見たい方にはリビングなどでも自由にみていただき、日中も昼寝など出来る様配慮を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診記録やお薬説明書をファイルしいつでも確認できるようにしている。また、服薬時にミスが起らぬよう複数で確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台所仕事、テーブル拭きやほうきがけ・洗濯物たたみ、お茶入れなど出来る方には日常的に行っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍にて一時的に中止・制限をしている。	新型コロナウイルス感染防止により外出機会が失われないよう玄関脇スペースや勝手口等のスペースを活用し外気に触れるよう努めている。また運動機能低下を防止するため、ラジオ体操の実施等に当たっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍にて外出を一時的に中止・制限をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけていただきご家族様等とゆっくり話を楽しんでいただいている。また、手紙を書いてもらう支援なども行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	障害物を出来る限り取り除き、安全・安心して過ごせるようにし、騒音や室温、装飾など環境整備につとめている。	利用者の自由な行動を保障すべく、スペースの確保、清潔が維持されている。廊下やリビングには飾りがなされており、季節を感じられる環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室やそれ以外の場所でもおひとりになれる空間作りをおこなっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具やテレビ、衣類があり、いつでもご本人が使用できるようにしている。	居室担当職員により衣替え・備品整備等がなされている。個別の空間は利用者のプライバシーと衛生の確保が実現している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活導線の確保を行い安全で自立した支援を実践している。		

(別紙4(2))

事業所名 : 新座北野グループホームそよ風

目標達成計画

作成日: 令和4年3月23日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	職員の高齢化が進んでいる。	既存の職員の介護技術を次世代に継承していく。	新卒の入社・配属が4月1日より決定しており教育、指導を行っていく。	12ヶ月
2	2	空室の対応。	地域の認知症でお困りの方の支援。	近隣の居宅事業所、当社の営業担当、近隣センターとの情報共有を密にとり、お困りの方への入居支援を行っていく。	12ヶ月
3					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。